

全国大会報告

杉野俊子

2013年日本言語政策学会（JALP）第15回記念大会が2013年6月1—2日に桜美林大学で開催されました。桜美林大学は、10年以上前の2002年12月にJALP第1回大会が開催された地です。当時はまだ「言語政策」という用語や概念自体が社会に浸透していませんでしたので、JALPの活動はまだ多くの研究者に理解されていないような時代でした。

第15回記念大会のテーマは『言語政策研究の過去・現在・未来』として、前段は「誕生から現在まで」、後段は「現在から未来へ」に焦点を当てた構成としました。

基調パネルディスカッション：「日本の言語政策研究の誕生から現在まで」

提案者 田中慎也（日本言語政策学会前会長）

大谷泰照（日本言語政策学会前理事）

提案者兼司会 森住 衛（日本言語政策学会会長）

全体シンポジウム：「日本の言語政策研究の現在から未来」

提案者 横田雅弘（異文化間教育：明治大学）

西口光一（日本語教育：大阪大学）

宮島 喬（移民政策：お茶の水女子大学）

提案者兼司会 西山教行（言語政策：京都大学）

一般発表に関しては、ここ何年か、大変興味深いテーマの発表応募が増えています。若手研究者による多彩な研究発表は、まさに第15回大会を記念大会と呼ぶのにふさわしいものと感じました。また、この学会は手話通訳をつけるという配慮をしています。

第1会場 「駐日大使館勤務者の言語管理—複言語使用者のL1・英語・日本語使用に注目して—」行田〔阿南〕悦子（桜美林大学大学院修了）

「言語意識運動から言語への目覚め活動へ」大山万容（京都大学大学院）

「初等、中等教育のあり方から見るヨーロッパにおける多言語主義の浸透」堀 晋也（京都大学）、西山教行（京都大学）

- 司会 オストハイダー・テーヤ (関西学院大学)
- 第2会場 「多言語コミュニティにおける共通言語と言語権—シンガポール、ドイツの事例から—」 松岡洋子 (岩手大学)
「情報保障における当事者性—情報保障媒体の日瑞比較—」
かどやひでのり (津山高専) / 打浪文子 (淑徳短期大学)
「日本手話を取りまく政策問題—言語政策と福祉政策の狭間で—」
杉本篤史 (東京国際大学)
- 【手話通訳あり】 司会 佐野直子 (名古屋市立大学)
- 第3会場 「批判的視点から見た日本の高校の外国語教育政策」
野田麻実子 (ロンドン大学教育研究所博士課程)
「外国語教育をめぐる政策サイクルの分析：英語以外の外国語の選択必修化の実現には何が必要か」 上村圭介 (国際大学)
「中国人名の中国語読み移行期を迎えて」岡本佐智子 (北海道文教大学)
- 司会 山崎吉朗 (日本私学教育研究所)
- 第4会場 「全国夜間中学校研究大会関係者の『ロビイング観』の変化」
日下部恵一郎 (一橋大学大学院)
「教科『日本語』と日本語教育との接面—連携の可能性を探るために—」
有田佳代子 (敬和学園大学)
「非英語圏のEMIプログラムにおける言語に関する現状と課題—日韓の大学を中心として—」 嶋内佐絵 (日本学術振興会特別研究員 [PD])
- 司会 嶋津拓 (大東文化大学)

近年国内や国外で問題になっている言語・教育政策や言語事象について、5つの分科会で、各テーマにそって貴重な提案や見解が出され、意見交換も活発に行われました。

- 第1分科会 「もう一つの学習指導要領」を考える—「講座」から「行動」へ
古石篤子 (慶應義塾大学)、杉谷眞佐子 (関西大学)、水口景子 (国際文化フォーラム)、白山利信 (筑波大学)、福田浩子 (茨城大学)
- 第2分科会 「障害とコミュニケーション—社会がうみだす情報弱者の視点を中心に—」
あべやすし (日本自立生活センター自立支援事業所/愛知県立大学)
川島 清 (ろう当事者/NPO 法人手話教師センター/D プロ)
神山 忠 (ディスレクシア当事者/岐阜市立岐阜特別支援校)

- 木村哲也(帝京大学)、司会・問題提起 佐々木倫子(桜美林大学)
- 第3分科会 「言語権と格差—日本・スペイン・香港の事例における問題点」
河原俊昭(京都光華女子大学)、柿原武史(南山大学)、原 隆幸(鹿児島大学)、
発表・問題提起 杉野俊子(工学院大学)
- 第4分科会 「メディアと言語政策—コミュニケーション政策としての言語政策」
門倉正美(横浜国立大学名誉教授)、下村健一(元TBSアナウンサー、
前内閣広報室審議官) 発表・問題提起 岡本能里子(東京国際大学)
- 第5分科会 「観光と言語—観光立国の方向性を探る」
藤井久美子(宮崎大学)、発表・司会 山川和彦(麗澤大学)

第15回大会を無事に終えることができたのは、JALP 三役・大会実行委員・大会担当委員や事務局の協力のたま物であったのは言うまでもありませんが、一重に会員の皆様のご協力とご参加のお蔭ですので、ここに感謝の意を表したいと思います。最後に、森住衛会長が、「言語政策は弱小言語のためにあるべきだ」とまとめられたように、先達者たちの学会設立趣旨と研究成果をさらに定着させていくことが私達の使命だと、新たに感じた大会でもありました。

(工学院大学)